



ご協力いただきました皆さま、一年間ありがとうございました！



2011年7月24日「親子の日2010スーパーフォトセッション」終了時の記念写真

◆新井美保◆石井正人◆石原 繁◆磯貝日月◆井上佳子◆猪股敏郎◆上田壮一◆エスケン◆大関和彦  
 ◆ブルース・オズボーン◆実佳・オズボーン◆由良・オズボーン◆織田裕睦◆梶原美紀◆川瀬なおつぐ  
 ◆岸俊一◆木村晋介◆木村仁美◆ジム・クーバー◆久野寛子◆熊谷正◆倉本信之◆小斎富士子◆後藤マリア  
 ◆酒井正樹◆桜井武司◆桜井健太◆佐藤仁◆沢田節子◆鹿野貴司◆志喜屋秀壮◆善福克枝◆関智  
 ◆高橋まゆみ◆田中勇樹◆谷口千絵◆堤哲◆手塚俊平◆長塚かおる◆林和男◆ピーター・バラカン  
 ◆樋貝吉郎◆平田麻子◆広川泰士◆福原義久◆古河雄太◆古田裕江◆本田努◆松井はるの  
 ◆松井ヒカル◆松井博司◆松井真守美◆松崎稔◆水野誠一◆宮崎光弘◆宮庄明宏◆森下茂男  
 ◆森田わかな◆森田似季◆山田真理◆柚木公奈◆吉瀬千春◆横山泰介◆渡辺 熱◆ビクター・ワラノフ  
 (あいうえお順／敬称略)

親子の日普及推進委員会  
<http://www.oyako.org>

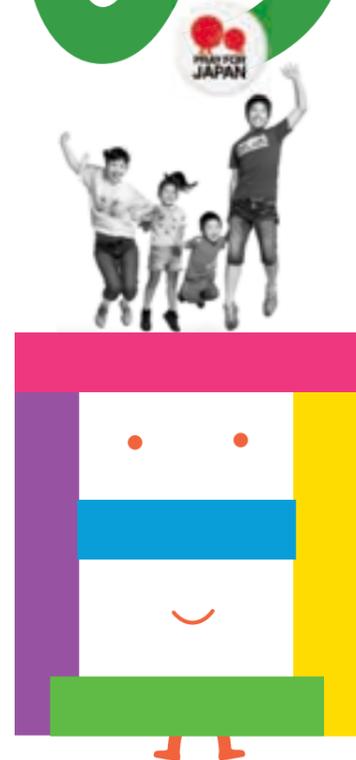
7月の第4日曜日は  
**親子の日**  
**2011年**  
**活動報告書**  
*present to the future*

年に1度、親と子がともに向かい合う日があつたていい。  
 その日を通して、すべての親子の絆が強められたらうれしい。  
 そんな願いを込めて、7月第4日曜日を「親子の日」にしたいと私たちは考えました。  
 2011年は、7月24日が「親子の日」。  
 皆さまからの協力をいただき、親と子の距離がぐっと縮まる  
 数々のイベントを開催。多くの共感をいただきました。

©Bruce Osborn



親子の



# present to the future

5月第2日曜日は、母の日。6月第3日曜日は、父の日。

## 7月第4日曜日は、親子の日。

米国人写真家 ブルース・オズボーンが「親子」というテーマをライフワークにしてから29年、「親子の日」がスタートしてから9年が経過。『「親子の日」には写真を撮ろう』『親子で向き合いコミュニケーションする時間を大切にしよう』という呼びかけも少しずつ浸透し、たくさんの人たちから応援の声をいただくことが出来ました。

また、未曾有の災害を経験した東日本大震災後は、多くの人たちが「親子写真」の価値を再認識した年でもありました。

『生まれて初めて出会う「親」と「子」の関係を見つめ、家族、地域、社会、そして自然をも含むすべての「環境」に敬意を払い、平和を願う』という思いを込めて、「親子の日」のオリジネーターであり、写真家であるブルース・オズボーンは、7月第4日曜日を「親子の日」にと2003年に提唱しました。

その理念に共感して発足した親子の日普及推進委員会は、「親子の日」を『親と子がともに向かい合う日に、そしてその日を通じてすべての親子の絆が強められる日に、さらには存在する事に感謝出来る日に』と願い、「親子の日」を定着させるために、さまざまな企画を実施して来ました。これからも多くの人たちに私達の理念が届くように、「親子の日」のメッセージを世界に向けて発信していきたいと考えています。

今年あらたに“present to the future”という「親子の日」のスローガンが決定。「親子の日」に込めた思いはきっと未来への宝物になると信じて、今後も活動を続けていきたいと思っています。



親子の日普及推進委員会  
<http://www.oyako.org>

### ◆ブルース・オズボーン プロフィール <http://www.bruceosborn.com/>

LA. Art Center College of Design で、コマーシャル写真を専攻。1980年の写真展「LA Fantasies」をきっかけに、日本での活動を本格的に開始。ボストン子供の博物館の企画展「TEEN TOKYO」では、東京のティーンエイジャーを撮影して展示。ボストンのMCET 制作、インターネットを使っての双方向教育番組では8回にわたってディレクターを務め、アメリカの高校生にむけて“生の日本情報”を伝えた。

1982年から始めた「親子」写真の撮影は今年で29年目になり、撮影した親子の数は3500組を超える。

2003年より7月の第4日曜日を「親子の日」にと提唱したオリジネーターで、記念日協会にも登録。「親子」をテーマにした写真展は、外国人特派員クラブ、横浜ランドマークタワー、山梨県立美術館、金沢21世紀美術館、愛・地球博園内愛知県児童総合センターなど、各地で数多く実施。

### <写真集、著書>

- 「親子」(デルポ出版)
- 「Oyako」(INKS INC. BOOKS)
- 「KAZOKU」(角川書店)
- 「ごめんなさい」(日本標準)
- 「反パンビ症候群」(ヒヨコ舎)
- 「親馬鹿力」(岩崎書店)
- 「この国の環境」(アサヒビール・清水弘文堂書房)



「親子の日」の普及推進にあたって、2011年度は右記の企業団体のご協力をいただきました。

### ●特別協賛



オリンパス株式会社



株式会社そごう・西武



第一生命保険株式会社



オーティコン補聴器

### ●協賛



東京都民銀行



キョーリン製薬ホールディングス株式会社



ドクタープログラム株式会社

### ●特別協力



毎日新聞社

●協力：オリンパスイメージング株式会社／エプソン販売株式会社  
株式会社円谷プロダクション／ぐるなび

●後援：J-WAVE

●Special thanks：SPACEPORT Inc.／滋賀県米原市／石川県珠洲市  
デジタルハリウッド／愛知県児童総合センター／アチーブメント出版株式会社  
東京YMCA "liby"／協同組合日本写真館協会／PFF(ぴあフィルムフェスティバル)  
株式会社浪漫堂／BeGood Cafe／NUTS／BBスタジオ広尾  
有限会社フィッシュグロウヴ／All American Supply, Inc.



「親子の日」の活動では、グリーン電力(1,000KW)を利用しています。

日・英バイリンガルの「親子の日」情報発信プラットフォームです。  
「スーパーフォトセッション」で撮影した写真掲載、「写真コンテスト」と「エッセイコンテスト」の入賞者発表、「親子大賞」の投票と発表、「親子ニュース」など、「親子の日」の重要な発信源！

◆ オフィシャルサイト

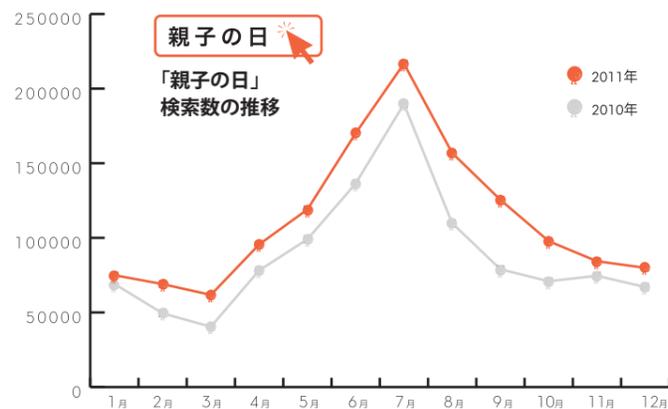


2011年の親子の日は  
**7月24日(日)**  
> Japanese  
2011 Oyako Day  
**July 24 (SUN)**  
> English



◆ SNSの活用

Facebook・Twitter・mixi など、SNSの活用を加え、多くの人たちとのコミュニケーションをはかりました。今年も、GoogleやYahoo!JAPANなどで「親子」と検索すると「親子の日」のオフィシャルサイトが常にトップにあり、「親子の日」への関心の広さを実感しました。



今年は、活動の中心に被災地応援を加え、私たち「親子の日」にできることを試行錯誤しての制作物作りを心がけました。

◆ 「親子の日」ポスター

▼ オリジナルポスター《A2サイズ…500枚》



▼ 円谷プロ特製ポスター  
《A2サイズ…500枚》

円谷プロは、「親子の日2011年」ウルトラマン特別バージョンのポスターを作って、全国のイベント会場に掲示。「親子の日」のいっそうの発展に協力いただきました。



▼ 《「親子の日」PR…20,000枚》



◀ エコバッグ《200枚》  
“present to the future”という「親子の日」のスローガンを強調してハッピーなイメージを意識したバッグを制作しました。



▲ リーフレット  
《三つ折り観音開き…5,000部》

◆ ポスカード

ポストカードは「親子の日」の普及に欠かせません。今年も2回に分けてポストカードを作成。たくさんの方が「親子の日」の普及に関わってくださいました。

▼ 《公式イベント紹介…20,000枚》





ブルース・オズボーンが2003年に「親子の日」を提唱して以来続けている撮影イベント。  
今回で9回目の撮影会となりました。  
招待させていただいた100組の親子の中には、被災されたご家族も参加。  
大切な思い出作りに協力できました。撮影した写真は、後日それぞれの親子に1枚ずつ送付。  
また、ウェブサイトとオリンパスギャラリーでの展覧会で紹介しました。



撮影/宮庄明宏 (オリンパス株式会社)



恒例のスーパーフォトセッションには、被災地からの応募者を含め全国各地からたくさんのお申し込みがありました。写真と一緒に送られてきた応募動機には、様々な親子のドラマが書いてあり、100組の参加者を選ぶのは、非常に困難な作業でした。ここに紹介するのは、撮影した写真と応募の動機の一部です。

※実娘が実家に帰ってきてほしい父。東京で立身したい娘。親元から離れて生活して23年九州男児。偏屈で頑固な父へ娘からのたまの親孝行をしたいと思って応募しました。選考に通っても「俺はいかん!」っていうかもしれませんので心配ですが…親孝行のお手伝いをしてください。

※主人に先立たれた2人暮らしの母子家庭です。かけがえのない宝物である娘と、いっしょにオズボーンさんに撮影して頂けたら、もう1つ宝物が増えます。是非撮影してください。



※小さなプライドを捨てられない自分の性格が、いろんな壁を作って来た。そのプライドを優しく包んでくれる彼の存在に守られながらの私に、娘が出来て4年…娘も自己主張が出来るようになってきた。別々の個性を持つ親子3人が、ブルースさんのレンズを通したらどんなふうに見えるか、是非見たいです。

※娘の七五三も終わってしまい、いっしょに記念写真を撮ることもしばらくないのでと思っていた矢先の震災。被害にあわれた方々を見ていて「家族写真」の大切さを感じました。今しかないこの時間の記録はきっと後々だいじな記念品となると思います、是非撮っていただきたいと思いました。



※「親子の日」のポスターをみて「すてきな記念日!」と思い、思わず応募しました。自然な我が家の表情を、ブルース・オズボーンさんに撮っていただきたいです。「親子の日」がどんどん広まるように、微力ですが応援します。

※昨年、写真展を拝見しました。どの写真もステキで楽しそうな笑顔。我家の親子写真も是非撮っていただきたいと、その時強く思いました。パパは照れ屋ですが、みんなで撮影会場に行けたら、とっておきの笑顔をしてくれるかな???と、内心期待しています。素敵な思い出を私たちにプレゼントしてください。

※趣味で写真を撮っているママさんカメラマンです。写真は見るのも撮るのも大好きですが、やんちゃな2人の子どもを撮影するのは一苦労。そんな私たち家族をオズボーンさんに撮影してもらえたら、私は本望!です。



※親になったこの1年。自分自身の価値観が生まれ変わるほど幸せで素晴らしい年でしたが、同時に、大震災等があり心を痛める出来事も多かったです。親になった今、子どもたちが健やかに成長できる世の中であって欲しいと強く思う日々。今までのわたしの人生で一番激動だったこの1年と、長男1歳の記念として、ブルース・オズボーンさんにわたしたち親子を撮影していただきたいと思って応募しました。



※新聞で「親子の日」というイベントを知って興味を持ってHPを見たところ、ブルース・オズボーンさんの親子の写真が素敵だったので大ファンに。写真撮影会も早速応募しました。

※父と一緒に撮影して欲しかったんですが、あいにく父は外出が出来ない状態。早くこのイベントを知っていたらヨカッタと今更ながら思いました。もしも撮影会に招待していただけたら、息子と主人と私の写真を、父へのプレゼントにしたいと思います。

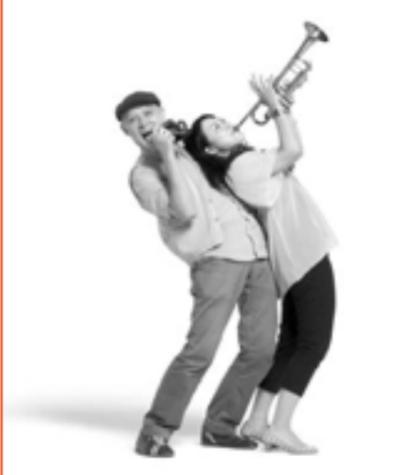
※数年前に「親子の日」というのを知ってから毎年7月が楽しみでいつも応募していましたが、残念ながら参加することが今までありませんでした。もうすぐドイツへ引っ越しの予定。「今度こそは参加したい!」と、諦めずに応募しました。ヨーロッパでは家族写真を撮るのはとても意味のあることで、節目節目で必ず撮るといふこと。家族で楽しく過ごした日本での思い出にしたいと思います。



※ブルース・オズボーンさんの写真は、いつもその親子らしさがバーン!と出ている写真で驚かされます。我が家は今年の夏で結婚10周年。決して平坦な10年ではなかったけれど、こうして家族で笑える毎日がしあわせです。今までの10年に感謝して、これからの新しい10年に向けてぜひ、オズボーンさんに親子写真を撮って頂けたら嬉しいです。どうぞよろしくお願致します。



※この数年、結婚や出産で家族が増え、家族同士の関係も変わってきました。今までになかった協力の仕方や関わり方が生まれてきて、戸惑ったり新しい発見があったり刺激が多い毎日。そんな日々の隙間から、自分たちが子供だった頃の家族の思い出が、フツ!とよみがえってきます。この1年は、育児・震災などを通じて、お互いに助け合う機会が増え、家族のありがたみを心から感じる場面が増えてきました。そんな私たちの家族のつながりを写真として残し、あとからも振り返れるようにしておきたいと思い、応募させていただきました。



※夫のがんが発覚して家族について見つめなおしていた時に「親子の日」について知りました。まだ闘病中の夫の様子を見ると不安な気持ちがつりますけれども、みんなで過ごす幸せな時間を記念に残しておきたいと思って応募しました。



※海の近くにあるホームに入っている祖母にたびたび写真を届けています。孫である私の名前も顔ももう思い出せないときもあり、ひ孫にあたる私の息子達にいたっては存在すらわからないことも多いのですが…。それでも「体調のよいときには、写真を眺めていますよ」とスタッフの方から伺うと、写真の力を感ずます。暴れん坊の息子達がみんなちゃんと前を向いたかわいい表情の写真を、祖母に届けたら応募しました。



※3月に東日本大震災があり、家族とともに毎日を暮らしてゆく当たり前の時間の積み重ねがどれほど幸せなことなのかを思い知らされ、「親子の日」という響きと意味をしみじみと考える機会になりました。来春、息子は小学生になります。今まで両手の中で育てていたようなそんな狭い世界から、大きな世界へ、小さな一歩を踏み出します。我が子のその一歩は、とても愛おしいです。「世界は日々新しい。その世界で、しっかりと新しい道を拓いて歩いてほしい」と願う気持ちを、オズボーンさんの写真に込めて子どもにプレゼントしたいと思えます。

※結婚してから人生が2倍楽しくなり、息子が生まれて人生が3倍楽しくなりました! はじめて知った「親子の日」ですが、とても素敵な日だと思います。いつも家族のためにお仕事を頑張っている主人と息子と一緒に素敵な思い出を作りたいと思い、イベントに参加したいと思って応募しました。家族3人で写っている写真がありませんので、楽しい家族写真を写していただけましたら嬉しいです。



今回で8回目をむかえた写真コンテスト。応募総数は947点と、昨年より更に多くの数の作品が全国各地から送られて来ました。内容的にも、様々な角度から「親子」の姿を個性的に見つけ、充実した作品が揃っており、楽しく審査会をすることができました。受賞者は以下の21名です。



◆オリンパス賞



鵜飼啓介 (茨城県)

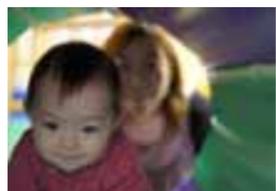


加藤謹一 (愛知県)



渡邊勇 (千葉県)

◆毎日新聞社賞



小澤敬 (東京都)



東智昭 (静岡県)



新田英生 (東京都)

◆オーティコン賞



増井典子 (北海道)



松原郁子 (沖縄県)



橋本直子 (兵庫県)

◆そごう・西武賞



宮園たみ (埼玉県)



松井孝 (埼玉県)

◆「親子の日」賞

◆エプソン賞



村上愛 (長野県)

◆ミルトン/キョーリン製薬ホールディングス賞



稲見千恵 (茨城県)



濱口和正 (奈良県)



青山和裕 (神奈川県)



佐藤大樹 (埼玉県)

◆トリニティーライン賞



大崎結 (神奈川県)



宮本有希子 (富山県)



紅露雅之 (北海道)



北川尋子 (兵庫県)



古橋郁子 (愛知県)



第7回目をむかえた「親子の日エッセイコンテスト」には、381点の応募がありました。どの作品にも深い思いが込められていて甲乙付けがたく、悩みながらの審査会でした。今年も若い世代から高齢の方まで、幅広い方たちからの応募をいただき、多様な「親子」の関係に感動を受けました。受賞者は以下の22名に決定いたしました。



◆オリンパス賞

福島宗之 (福岡県)

「母の背中」

嶋崎望 (大阪市)

「失われた記憶」

橋本望 (大阪市)

「父と私」

◆そごう・西武賞

水島光一 (神奈川県)

「デパート」

◆オーティコン賞

古賀厚子 (福岡県)

「魔法の言葉」

渡会克男 (千葉県)

「バカ親子」

本田公成 (福島県)

「被災地にて思いを寄せたこと」

◆ミルトン賞

キョーリン製薬ホールディングス

谷川弓子 (アメリカ合衆国)

「母性は遅れてやってくる」

柳澤和 (群馬県)

「涙とメール」

成岡華代 (東京都)

「娘のお祈り」

柿本清美 (和歌山県)

「これからもずっとずっと」

丸山公忠 (千葉県)

「にゃんこ」の謎

◆エプソン賞

神明絵美 (山口県)

「こころに残るアルバム」

※入賞したすべてのエッセイはウェブサイトに掲載してあります。

◆毎日新聞社賞

中田勇樹 (島根県)

「血縁」

工藤夕香 (北海道)

「日記」

寺田隆太郎 (東京都)

「タワー親子」

◆トリニティーライン賞

富田真澄 (静岡県)

「神様からのプレゼント」

田中千紘 (愛知県)

「遅咲きのピアニスト」

頼富雅博 (群馬県)

「馬車馬のごとく」

鈴木亮子 (三重県)

「雪の日の記憶」

三好佑貴 (兵庫県)

「父と私」

◆親子の日賞

一柳誠 (岡山県)

「共に越えた壁」

●受賞者からのメッセージ 福島市 本田 公成  
3月11日の午後2:46にあの大地震がありました。その日の午前卒業式だった中3の息子は、かろうじて式を終えることができましたが、23日に予定されていた小6の娘の卒業式は中止になりました。その間、「いいなあ、お兄ちゃんは卒業式があつて」と娘がため息をつく日が続きました。  
(中略)  
いただいた賞品は、娘がほしいというので、卒業記念品ということでプレゼントしました。今回、いつもとは明らかに違うこの年に、このような賞をいただけましたことは、私にとっても娘にとっても家族にとっても忘れ得ない大切な思い出になりました。私たちが少しずつ落ち着きを取り戻し、暮らしも元通りになってきました。これからも親子なかよく暮らしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

企業との取り組み **オリンパス株式会社**

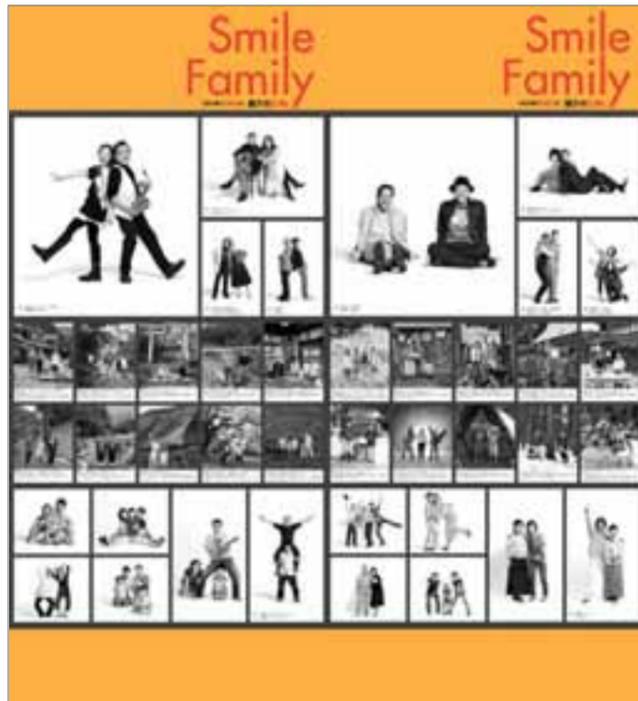
特別協賛として8年間「親子の日」を応援してくださっているオリンパスは、2011年も「親子の日」のスーパーフォトセッションに、ボランティアスタッフとして社員の有志の皆さんが参加してくださり、一日中他のスタッフとともに、イベントの潤滑な運営のお手伝いをしてくださいました。また、東京と大阪で行われた写真展では会場としてオリンパスギャラリーを提供いただきました。「親子の日」の社内認知度を高めるために、季刊ごとに13,500部発行する社内報に「親子の日」とブルース・オズボーンについての記事を掲載。たくさんの方々に知っていただく機会を作ってくださいました。



▲ 季刊ごとに出版する社報「OLYMPUS FORUM 2011」

企業との取り組み **株式会社そごう・西武**

2010年に引き続き特別協賛として「親子の日」を応援していただいたそごう・西武では、独自のイベントを開催。また滋賀県の米原市で行われている「水源の里まいばらOYAKO写真展」の首都圏会場として、そごう横浜店を提供。米原市で取り組んでいる親子プロジェクトをプロモートしてくださいました。



▲ そごう横浜店で行われた「米原 OYAKO 写真展」のパネル

企業との取り組み **第一生命保険株式会社**

特別協賛企業である第一生命と「親子の日」は、「親子大賞」を共催しました。キャンペーンと連動した投票活動を全国展開することにより、「親子の日」の活動をたくさんの方々に伝えることができました。活動の成果は投票数にも表れ、「親子大賞2011」は例年にも増して多くの方々の声を反映した結果となりました。



▲ 毎日新聞掲載広告



▲ 親子の絆を写真に残すための撮影ノウハウ冊子



▲ 全国展開キャンペーンリーフレット

企業との取り組み **オーティコン補聴器**

今年初めての特別協賛企業として「親子の日」を応援していただいたオーティコン補聴器は、全国の販売店を舞台としたユーザーキャンペーンを展開。店頭での告知だけでなく、ご当選者をフォトセッションにご招待されるなど、多面的に「親子の日」のプロモートにご協力いただきました。



時事光学新聞掲載記事



▲ キャンペーンポスター



2011年に協賛企業として加わって下さったキョーリン製薬ホールディングス株式会社は、フォトセッションに「Miltonママクラブ」会員を招待し、フォトセッションの様子を「Miltonママクラブ」HPで紹介してくださいました。また後日、「Miltonニュースレター」として、フォトセッションの様子をメディアへ発信してくださいました。

◀Milton ママクラブ HP



▲トリニティーラインニュース

長年「親子の日」を応援してくださっているドクタープログラムでは、「トリニティーライン」の会報誌(発行部数12万部)で「親子の日」を告知。「親子の日」当日のスーパーフォトセッションへの参加者の公募をしてくださいました。



「親子の日」普及のための後援をして下さっているJ-WAVEでは、今年も番組中、たくさんの時間を提供して「親子の日」のPRと写真展の告知をしてくださいました。

◀公式サイトでの写真展告知

特別協力として応援してくださっている毎日新聞では、3年目になる特集の「親子インタビュー」を継続。ブルース・オズボーンが撮り下ろした各界の親子写真と、記者によってインタビューされた親子のストーリーには、それぞれの親子関係が如実に表れていて、魅力的な紙面となっています。

▼2012 正月特集「家族の絆」(2012年1月1日掲載)



▼工藤公康×工藤遙加親子(2011年5月22日掲載)



▼奥田瑛二×安藤サクラ親子(2011年7月3日掲載)



▼杉山美沙子×杉山愛親子(2011年7月24日掲載)



▼鷹赤兒×大森立嗣親子(2011年2月27日掲載)



▼平原まこと×平原綾香親子(2011年3月6日掲載)



▼石黒修×石黒賢親子(2011年9月3日掲載)



▼アニマル浜口×浜口京子親子(2011年10月23日掲載)



▼コシノジュンコ×鈴木順之親子(2011年11月20日掲載)



▼トミー・スナイダー×SHANTI親子(2011年12月28日掲載)





## 被災地訪問プロジェクト

震災後、「親子の日」が出来ることを模索。答えの1つとして、被災地訪問を実施いたしました。このプロジェクトを実施するにあたりブルース・オズボーンの親しい写真家に声をかけたところ、写真家の広川泰士氏、熊谷正氏、高橋まゆみ氏の共感を得ることが出来、6月、福島県相馬市を訪問。被災者の親子、家族、仲間の写真を撮影して写真をプレゼントしました。子どもたちとのワークショップも実施。被災者との交流を図ることができました。10月には再び宮城県と岩手県の被災地を訪れて撮影会をいたしました。



### ◆東日本被災地応援プロジェクト「I TIE ☆ 会いたい」

親子の日普及推進委員会では2011年、東日本大震災で被災した親子を対象に2回にわたり、被災地で撮影会を開催してきました。参加したのは、ブルース・オズボーン、広川泰士、熊谷正、高橋まゆみの4人の写真家で、「新たな出発の大切な記念にして欲しい」という願いを込めた写真を撮影し、延べ91組の家族にプレゼントをいたしました。この撮影会の体験をもとに企画されたのが、東日本被災地応援プロジェクト「I TIE ☆ 会いたい」です。

2011年にCIPAフォトエイドの助成金を得ることが決定。実質的な活動のスタートは2012年ですが、被災により失われたさまざまな絆を取り戻すきっかけにしておうと、プロカメラマンが撮影方法を子どもたちにわかりやすく手ほどきします。子どもたちは、ワークショップで専門的な技術や写真の役割等を学んだのちに、復興していく町並みや家族や友だちの様子を撮影します。

また、インターネット上に子どもたちの写真を掲載できるプラットフォームも構築して、復興の様子を世界に発信したり、被災後にふるさとを離れ各地で避難生活を余儀なくされている仲間たちに互いの近況を伝えることも目指しています。さらに、地元の写真館とも連携。ワークショップ後も地域の拠点として継続し、地域のネットワークとして活用していただくことが可能なプロジェクトです。

※震災後、「親子の日」とブルース・オズボーンは、たくさんの方たちの呼びかけをうけ、ART LOVE JAPAN、Save Japan Photo Cards Project、LOVE is、東日本大震災被災者支援チャリティー写真展、東日本大震災復興支援プロジェクト写真家のチャリティー写真販売などのチャリティーイベントを通じて、被災地復興へのお手伝いを数多くさせていただくことができました。





◆ 米原市

米原市では、今年も「親子の日」にちなんだイベントが数々行われました。JR米原駅の自由通路にできた「親子ギャラリー」には、ブルース・オズボーンが撮影した数々の写真と並んで、米原で過去2年間、四季を通じて撮影してきた米原の親子の写真も展示してあります。また、「親子の日写真コンテスト」の「親子の日賞」として「伊吹の旬彩元気モリモリセット」をご提供いただきました。



◆ 珠洲市

珠洲市では、平成23年7月23日(土)～24日(日)の2日間、「親子の日」にちなんで「珠洲おやこの自然学校」を実施。開催地の木ノ浦健民休暇村には過去最高の79組(239名)が集まり、隊長に任命されたセイン・カミュと一緒に親子で楽しい時間を過ごしました。また、「親子の日写真コンテスト」の「親子の日賞」として 珠洲市特産珪藻土コングラ大判をご提供いただきました。



◆ デジタルハリウッド

昨年に引き続き、デジタルハリウッドでは学生たちに呼びかけて「親子の日」をテーマに、ポストカードのコンテストを実施。今年は石渡愛さんがグランプリを受賞しました。



選んでいただいております。なんだか本当にびっくりしましたが、私の作品を評価してくださる方がいるのはこれからの励みになります。本当にありがとうございました。 ●石渡 愛

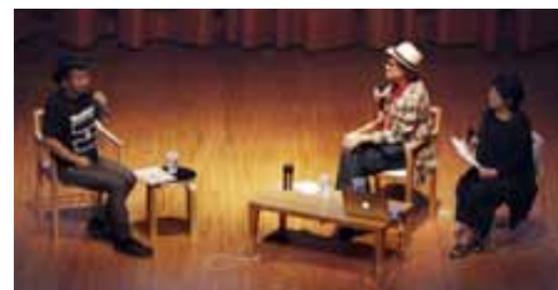
◆ 協同組合日本写真館協会

今年も、写真館独自で企画した「親子の日」撮影プロジェクトのニュースを数々いただきました。2012年にかけてもこのムーブメントが期待できそうです。



◆ EARTHLING 2011

Think the Earth 主催の「EARTHLING 2011- 地球人大演説会」は、これからの人間の可能性について共に考え、明日からの行動を生み出すというモクロミを持って企画。登壇者全てが持ち時間の15分を有効に使って EARTHLING (地球人) としての思いを熱く語るというイベントでした。30人のスピーカーの一人としてブルース・オズボーンが登壇し、「親子の日」について語りました。



▲ Think the Earth 編 / ソル・メディア出版

◆ 海のようにちえん

7月3日の日曜日、引き潮の時間帯を選んで葉山のビーチに集まった「親子」で「海のようにちえん」が催されました。バーベキューと音楽と撮影会。親子で一日を楽しく過ごしました。



◆ フォーシーズン椿山荘

8月8日～19日の12日間、フォーシーズン椿山荘で「親子」写真展が開催され、宿泊したお客様に、ブルース・オズボーンが今まで撮影した写真の一部を見ていただき「親子の日」について知っていただく機会がありました。



◆ 愛・メッセージ

(社)日本ライフデザインプロデュース協会は、「親子の日」の応援イベントとして、7月の4週にわたり都内各地でイベントを開催。7月24日(日)の「親子の日」当日には、渋谷・ギャラリールデコにてフォトセッションイベントを開催。「親子の日」を広げるために一役買ってくださいました。





## 公式サイト「各地のイベント」に登録された情報

「各地のイベント」サイトには、今年も多くの親子関連事業が登録されました。事業の内容は様々で、「親子」というキーワードが生活に密着しているという事が実感できます。



\*ベビーとママのベビーリフレ教室 (東京都分寺)



\*被災地における離婚と子ども問題相談会 (宮城県)



\*親子フォト撮影会 (東京都渋谷区)



\*第6回アディ親子の日撮影会 (石川県)



\*心と体 動かそう！  
ハピコミ親子ヨガ (東京都目黒区)



\*パパといっしょに親子たいそう&すいせい (東京都杉並区)



\*親子でアユにいらっしゃ〜い (神奈川県)



\*札幌競馬場 (北海道)



\*親子 de 写真教室 (東京都港区)



\*親子で国際理解★世界の遊びランチ交流会 (新宿区)



## 掲載メディア情報

昨年以上に活発な告知メディアとして、インターネットでの情報公開が目立った一年でした。そのために海外からの取材も増え、2012年に10周年を迎える「親子の日」にとって、効果的な助走の一年となりました。

### ◆テレビ

▼6月と10月の2回、福島県相馬市をはじめ岩手県や宮城県を訪れて、各地の親子の撮影をしました。この様子取材した映像は、2012年2月10日、NHKワールドで世界中に発信されました。



▼ボストン子ども博物館の企画「TEEN TOKYO」で、ブルース・オズボーンが20年前に撮影した10代の子もたちに再会。親になったかつての10代(現在30代)との親子談義に花が咲き、話題は「親子の日」にも及びました。この様子は、「再会-20年後の君たちは-」として、2012年1月9日(成人の日)に、NHK総合でオンエアされました。



▶NHK大阪で「親の顔が見てみたい」が再放送されました。



### ◆ラジオ

後援いただいているJ-WAVEの他にも、横浜FM、東京FM、NHK国際ラジオ、J:COMなど、数多くの番組に出演する機会があり、「親子の日」について視聴者に伝えることができました。

### ◆新聞

特別協力の毎日新聞以外にも、湘南読売やお母さん業界新聞等、今年もたくさんの新聞で「親子の日」を告知していただくことができました。



### ◆WEB マガジン

2011年は、WEBでの紹介記事が多かったのが特徴でもありました。EARTH MAGAZINEは、創刊号にブルース・オズボーンの親子写真を掲載。「親子の日」を大きく紹介してくださいました。



### ◆雑誌

今年も湘南の親子を撮影。写真は「湘南スタイル」に掲載されました。BE-PALの特集では、加山雄三親子にも出演していただくことができました。





So-net 日めくりカレンダー



animouto.exblog



yahoo ブログ



デジカメウォッチ  
～ブルース オズボーン特集～



i-Yoblog



twitpic



札幌経済新聞



SPACEPORT INC. projects



愛知県児童総合センター



アプリでフォト樋口裕美のブログ



ママさんカメラ部



Kol Net



激裏情報



滋賀咲くひろば おのち★ぶろぐ



じゃらん



アメブロ 写真教室@浜松町



ギフトカレンダー親子の日はいつ?



ソーシャルニュース Ceron.jp



日本ライフデザインプロデュース協会



保険市場 TOMES



umi no youchien



SAITO STUDIO



@Press



Capa Camera Net ニュースフラッシュ



ロイトン札幌



米原市近江公民館



ホリ写真館



Ameba ~InfinityyooFuture



twicsy



Wikipedia



年ごとに、海外のメディアに取り上げられることも増え、「親子写真」への反響も高まってきました。また、「親子の日」に共感してくれる海外のファンからのメールも数が増えてきたという傾向が見えたこの一年でした。

artscape Japan



la Lettre de la Photographie



Oracool



One Inch Punch



PhotoGuide Japan



Sapporo Keizai Shimbun



Majirox News



Bunch



Oitzarisme



Vionto



Meme Center



in My Community



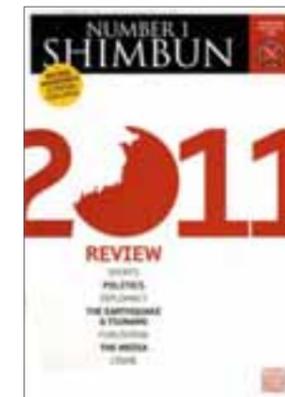
PicoCool



xaxor.com



Number 1 Shimbun



EURObiz



ALILA Mag.





♡ プランナー>>>

今日7月24日(日)は、『親子の日』だそうです。親子の関係を見つめ直し、感謝しようという日です。5月第2日曜日が『母の日』6月第3日曜日が『父の日』そして7月の第4日曜日が『親子の日』となります。普段なかなか言えない感謝の気持ちを伝えましょう。みなさん今日は、早めに帰り、親孝行してみたいかがでしょうか。遠くにいる方は、電話してみるのもいいですよ。

☆ ラッキー>>>

『親子の日写真コンテスト』で入選しました。親子というテーマのコンテストで入賞するのは、なんだか特別嬉しいもの。これからもいい写真を撮って応募したいです。

☆ 写真大好き>>>

「親子の日」に撮影した写真の展示会に一人で行って来ました。一人で行ってヨカッタ〜というのも、泣けるんですよ…。

☆ 悩み大木>>>

最初の「親子の日」で、オズボーンさんに写真を撮ってもらったんですが、その後、毎年、この企画に応募しているのに、倍率が高いようで、いつもガッカリしていたんです。でもでも、今年は「親子の日」撮影会の招待状が届きました。8年目にしての念願が叶いました。今度は何着ていこうかな??

♡ はっぴーまま>>>

息子が産まれたので、「親子の日」の撮影会に応募しました。幸い撮ってもらえる事に!!! 才の記念のイベントが出来て、嬉しかったです。息子へのだいたいな贈り物に! 両親や義理の母へもいいプレゼントが出来そうです。



♡ 田舎人>>>

今年は、東日本の震災があって日本中が揺れ動きましたね。私は被災地の出身なので、沢山の友人や親戚が被害に遭いました。東京に住む友人たちが津波にあった我家を訪ねて手伝ってくれたおかげで、瞬く間に家がきれいになりましたが、被災地に残っている両親は心配ですが、地元に残って東京に来るつもりはないと腹をくくっているんで、「親子の日」の前後に休暇を取って両親のもとに戻ろうと思っています。



☆ タンキ>>>

父とケンカ中に「親子の日」の事を知りました。気まずかったけど、手紙を書いてあやまりました。おかげで、仲直りができました。大好きな親と、これからも仲良くしたいです。そして、ケンカしそうな時は、「親子の日」の事を思い出したいと思います。

😊 似た者どうし>>>

結婚式は、今まで育てて下さった両親に感謝の気持ちを伝えられる場所でもあります。普段はなかなかいえない言葉もこの機会に伝えられるといいですね☆ 結婚式をひかえた最近、両親と話す機会が減ってきている事に気がつきました。「親子の日」なんて素敵な日があると知ったので、帰ったらたくさん話して親子の絆を深めようと思いました。それにしても親子ってだんだん似てくるものですね?



☆ ツレの連れ>>>

親子の日というのをご存じでしょうか? 親子の日は、写真家のブルース・オズボーンさんがはじめられたもので、7月の第4日曜日を「親子の日」としよう、というものです。ツレが応募して、オズボーンさん自らが親子の日に親子の写真を撮ってくれました。撮ってもらって嬉しかったけど、プレゼントの写真が届いたときは、また感激!

♡ 頂>>>

撮影会に参加して驚きました。それは、100組以上の親子たちを一日で撮影してしまうブルースさんのバイタリティーです。ベストの絵を残すまであきらめないブルースさんの姿勢は見て、すぐに諦める自分を恥ずかしく思います。来年はブルースさんが親子の撮影を始めてなんと30年で、スーパーフォトセッションは10回目を迎えるそうです! 「親子の日」は確実に日本を元気にしてくれています! もちろん、ほくも元気をいただきました。

☆ 一人ジャンプ>>>

明日は待ちに待った「親子の日」です。写真の撮影会に応募していましたが、前日になって補欠だという事で参加のご連絡いただきました。受話器を置いたあとで、一人でジャンプ!

😊 サッポロ>>>

「親子の日」は既に過ぎてしまっていて、ガっかりしていたら、ツレが、オズボーンさんに親子の写真を撮ってもらえる企画を発見しました! フォーシーズンズホテルのプランで、親子の写真をオズボーンさんに撮ってもらえ、宿泊出来るというもの。早速応募しました。

♡ LALA>>>

毎年7月第4日曜日に開催される親子の日。その写真展が先週オリンパスギャラリーであったので、娘と友達と3人で週末に見に行きました。会場には113組の親子の写真が壁一面。じっくり見えています。

☆ ココだけ>>>

「親子の日スーパーフォトセッション」への招待状が届きました。しあわせに満ちた親子の写真を撮ってもらいに行ってきます。写真が出来たらブログにアップしますね。



☆ 応援団>>>

「親子の日」だなんて、なんて素敵なアイデアなんだろうと、とても感動しました。家族、両親のことが大好きで本当に大切に思っている私にとって、ホームページ上に書かれていたブルース・オズボーンさんの想いに、非常に心動かされました。勝手に応援団設立したいです。

☆ ワックワック>>>

毎年「親子大賞」にだれが選ばれるか楽しみで、投票を欠かしません。今年はだれに決まるかな〜と思っていたら、大竹しのぶさんと IMALU さんの親子。大竹さんは大好きな女優さんなので嬉しかったです。これからも活躍して欲しいですね。



☆ なでしこ>>>

素晴らしい「親子」というタテのつながり、それのもたらす幸せを、もっともっと多くの人に知ってほしい。私の願いなのです。それを実現しているのが、まさに「親子の日」であるのだと気がつきました。

♡ イノチ>>>

晩酌タイムのパートナーの口癖は、「おれが一番大切なのはファミリーなんや」とやたら「ファミリー」「ファミリー」と言っています。家族ってすごくすてきな根っこ。苦笑しながらも納得しています。

♡ ほと>>>

「親子の日」の公式イベントのエッセーコンテストと写真コンテストを見ました。どの写真にもそしてどのエッセーにもあたたかい温もりが感じられて、私はこのコンテストの結果をいつも楽しみにしています。来年は、私も参加しようかな…。

😊 写真好き>>>

親子の写真を撮りたいのよ。ずっとずっと撮り続けたいのよ。という わたしのためにあるような「親子の日」!! 明日は公園で親子撮影会。しあわせいっぱい写真を撮ってきます?

☆ 蝉の声>>>

セミさんのあつ? い鳴き声が聞こえてくるようになりました。子どもを授かった幸せに受賞が重なって、最高の年になりました。

☆ 玉手箱>>>

他人と他人が会って夫婦になって、夫と妻のそれぞれの家族との出会いがあって、そして、子どもが生まれて、親子との出会いがあって、子ども同士が会って夫婦になって…いいたい私たちは、一生の間に何人の人と出会うんでしょうね? だいたいな出会いであればある程、その出会いをだいにしたいものです。「親子の日」に乾杯!

☆ 潮来>>>

「親子の日」のサイトに会って、感激!! 隅から隅を読みあさってしまいました。「年に1度、親と子どもがともに向かい合う日があったっていい。その日を通じて、すべての親子の絆が強められたら素晴らしいと私たちは考えました…」って、なんて素敵な発想! デジタルな社会になって、世の中便利になったのですが、逆にアナログ的な人間関係が希薄になっている今日この頃。優しさが詰まった「親子の日」のだいたいを切実に感じるのです!

♡ 新米まま>>>

出産予定日を2週間前にひかえ、身重で仕事も思うようにできなくなった私は、生まれてくる子どもの事を思いながら「親子」をテーマにエッセーを書こうと思っていました。そんな時に、「親子の日」のHPを知って、さらにエッセーコンテストをしている事を発見! 心を込めて書いたエッセーは入賞しました。娘との初めてのコミュニケーションにご褒美が。子どもを授かった幸せに受賞が重なって、最高の年になりました。



- 2003** はじめての親子の日  
ブルース・オズボーンの自主企画として 100組の親子を撮影  
・「親子の日普及推進委員会」発足
- 2004** 2回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」で 100組の親子を撮影  
・オリンパスギャラリーにて『親子』写真展を開催  
・第1回「親子の日写真コンテスト」を開催
- 2005** 3回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」で 100組の親子を撮影  
・「親子の日」を記念日協会に正式登録  
・銀座アップルシアターにて音楽と映像の融合イベント『OYAKO open mic.』を開催  
・TV金沢の主催により金沢21世紀美術館で『親子』写真展を開催  
会場内特設スタジオでの公開親子撮影会で石川県の親子30組を撮影
- 2006** 4回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」において 105組の親子を撮影  
・外国人記者クラブにて、『親子』写真展を開催  
・日本写真館協会の主催イベントにて大阪の親子30組を撮影  
・愛知県児童総合センターにて『親子』写真展を開催  
・第1回目「親子の日エッセイコンテスト」を開催  
・オリンパスギャラリーにて『ブルース・オズボーンと親子写真』開催
- 2007** 5回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」において 100組の親子を撮影  
・オリンパスギャラリーにて『親子の日報告写真展』開催  
・第1回「親子大賞」を実施  
・愛知県児童総合センターにて『親子』写真展を開催  
・能登半島地震の被災者親子写真を撮影、ラポルト珠洲で展覧会を開催  
・石川県珠洲市が、「親子の日」を公式制定  
・JCII（日本カメラ博物館）、千葉県ユーカリが丘にて写真展開催
- 2008** 6回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」において 100組の親子を撮影  
・オリンパスギャラリーにて『親子の日報告写真展』開催  
・愛知県児童総合センターにて、『親子』写真展開催  
・埼玉県越谷市のレイクタウンで『親子&仲間』写真展開催



金沢21世紀美術館での「親子」写真展



愛知県児童総合センターでの「親子」写真展



スーパーフォトセッション撮影風景



オリンパスギャラリーでの写真展



越谷市レイクタウンオープニング挨拶

- 2009** 7回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」において 100組の親子を撮影  
・オリンパスギャラリーにて『ブルース・オズボーンと親子写真～「親子の日2009」に出会った100組の親子～』開催  
・東京ビッグサイトで行われた Photo Imaging Expo 2009 で撮影とトークイベントに参加  
・arpの“わたしのこえ”を第1回公式ソングと決定  
・銀座アップルシアターで、arpとコラボレーションのイベントを実施  
・川崎アートセンターで『夏休みは親子 de 映画』企画。写真展も開催  
・阪急三番街40周年記念イベント『親子写真展』を開催  
・愛知県児童総合センターにて、親子写真展『家族のうれしい顔』を開催
- 2010** 8回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」において 104組の親子を撮影  
・オリンパスギャラリーにて『ブルース・オズボーンと親子写真～「親子の日2010」に出会った104組の親子～』開催  
・滋賀県米原市が、「親子の日」を公式制定  
・MOOMINの「うまれたての瞳」が2010年公式ソングと決定し、銀座アップルシアターで「親子の日」普及のコラボレーションイベントを実施  
・毎日新聞が「親子インタビュー」の連載スタート  
・UNIVERSITY OF PACIFIC (カリフォルニア) で、海外初の「親子写真展」開催  
・「親子大使」制度の導入  
・ブルース・オズボーンが、「親子」の写真で、International Photography Awardsを受賞。海外でも「親子」の写真が高い評価を受けた  
・第4回キッズデザイン賞にエントリー。入賞を果たす
- 2011** 9回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」において 110組の親子を撮影  
・オリンパスギャラリーにて『ブルース・オズボーンと親子写真～「親子の日2011」に出会った110組の親子～』開催  
・公式イベントの「写真コンテスト」は8回目、「エッセイコンテスト」は6回目、「親子大賞」は5回目となる  
・6月、被災地訪問プロジェクトを企画。第一回目として、8～10日までの3日間相馬市を訪れて相馬の親子撮影を実施  
・7月、米原駅で「水源の里まいばら OYAKO 写真展」かけがえのないもの” with ブルース・オズボーン」を開催（展示は2012年3月31日までの予定）  
・10月、第2回目の被災地訪問プロジェクトとして、7～16日の10日間、岩手県の宮古市、大船渡市、釜石市、大槌町、田老市、宮城県の気仙沼、南三陸町などの被災地を訪れ「親子」の写真を撮影し、後にプレゼントするという活動を実施  
・CIPAフォトエイドの助成を受けて、東日本被災地応援プロジェクト「I TIE ☆ 会いたい」を2012年に実施する事が決定



PIE イベント会場



阪急百貨店「親子写真展」



University of the Pacificで海外初の「親子写真展」



被災地訪問プロジェクト